

# 北海道地方 2020年の天候

2021年1月4日  
札幌管区气象台 気象防災部  
地球環境・海洋課

## 概況

### ●年(1～12月)

#### 2年連続の顕著な高温と少雨。

北海道22地点平均の平年差(比)は、気温は+1.0℃で平年よりかなり高かった。降水量は93%で平年より少なかった。日照時間は100%で平年並だった。

### ●冬(令和元年12月～令和2年2月)

#### 4年振りの暖冬、降雪量は記録的な少雪。

12月と2月は一時的に強い寒気が入り、発達した低気圧や強い冬型の気圧配置の影響により局地的に大雪となった日もあったが、1月を中心に極域から寒気が南下しにくい正の北極振動が卓越し、冬型の気圧配置は長続きしなかった。また、発達した低気圧の影響を受けにくく、記録的な少雪となった。

### ●春(3～5月)

#### 寒気の流入が弱く、6年連続の暖かい春。

4月中旬から下旬は寒気の影響、5月はオホーツク海高気圧の影響を受けて気温が平年より低い時期もあったが、暖かい空気に覆われやすかったため、気温は平年より高く経過した。5月下旬には、太平洋側東部とオホーツク海側で真夏日となった所があった。降水量は、5月は太平洋側で平年より少なかったが、3月は発達した低気圧の影響でまとまった雨となった時期があり、平年より多かった。

### ●夏(6～8月)

#### 6月下旬は記録的な寡照。7月は少雨。8月の宗谷地方は記録的な大雨の日も。

オホーツク海高気圧からの冷たい気流の影響は一時的で、暖かい空気に覆われやすかったため、気温は平年より高かった。6月中旬から下旬は低気圧や湿った気流の影響で日照時間が少なく、特に6月下旬は1961年の統計開始以来、最も少なかった。一方、7月から8月は、高気圧に覆われて晴れた日が多く、太平洋側を中心に少雨となった。8月は前線や低気圧の影響で大雨となった日があり、宗谷地方では台風第4号から変わった低気圧や前線の影響で記録的な大雨となり、浸水害や河川の氾濫、土砂災害が発生した。

### ●秋(9～11月)

#### 顕著な高温と寡照。

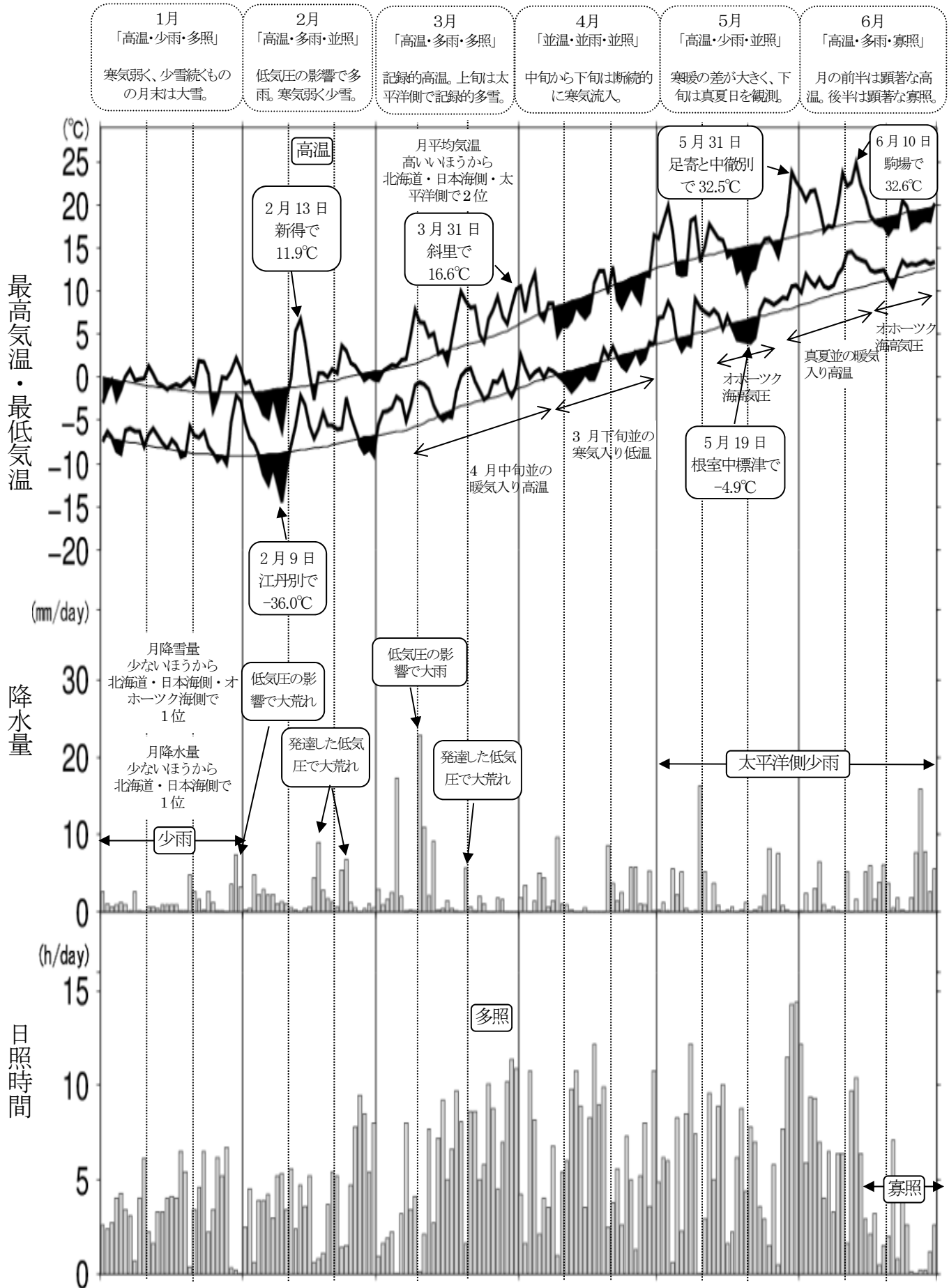
北からの寒気の影響を受けた時期もあったが、南から暖かく湿った気流が入りやすかったため、気温は平年よりかなり高く、日照時間はかなり少なかった。特に9月上旬は、太平洋高気圧が北海道付近に張り出したため、各地で真夏日となった日が多く、記録的な高温となった。10月は、低気圧や気圧の谷の影響により大雨や大荒れの天気となった所があった。初雪は、10月下旬から11月にかけて気温の高い日が多かったため、平年より遅かった。

### ●初冬(12月)

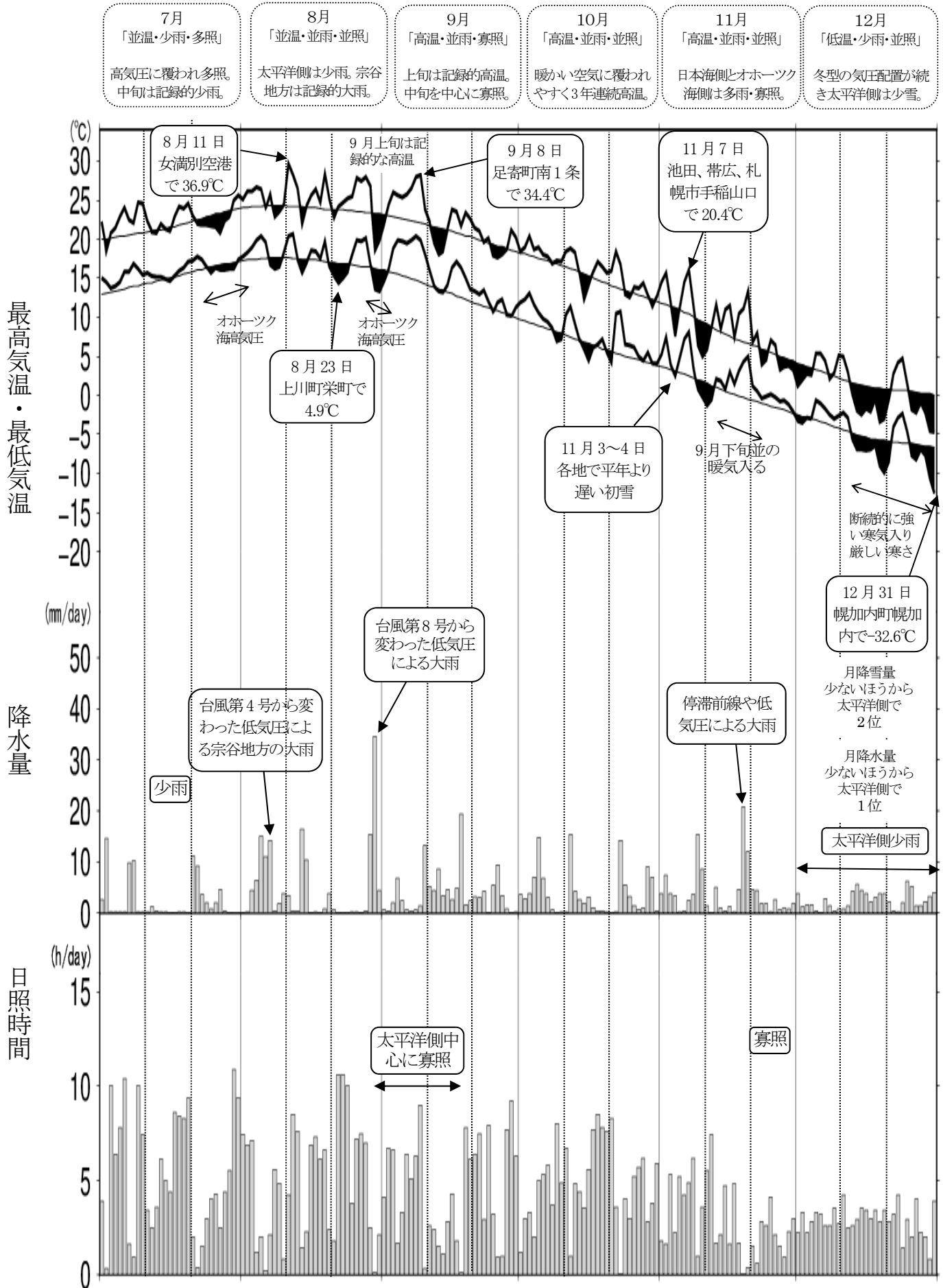
#### 日本海側は局地的に大雪。太平洋側東部は記録的な少雪。

この期間の天気は、冬型の気圧配置の影響で日本海側と太平洋側西部では雪の降った日が多かったが、オホーツク海側と太平洋側東部では晴れた日が多かった。気温は、中旬以降断続的に強い寒気が流入したため、月平均気温は平年より低くなった。降水量は、太平洋側とオホーツク海側では平年よりかなり少なく、特に太平洋側では1946年の統計開始以来、最も少なかった。降雪量は平年よりかなり少なく、特に太平洋側では記録的に少なかった。

# 2020年1月から6月までの気象経過図（北海道22地点平均）



# 2020年7月から12月までの気象経過図（北海道22地点平均）



## 年の統計値（地域平均）

	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+1.0	++	93	-	100	0
日本海側	+0.9	++	98	0	101	0
オホーツク海側	+1.0	++	101	0	96	-
太平洋側	+1.1	++	83	-	101	0

- 注）・数値は、地域内の気象台等（日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点）の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。
- ・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981～2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 年の統計値（地点別）

官署名	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 °C	平年差 °C	階級	本年 mm	平年比 %	階級	本年 h	平年比 %	階級
稚内	7.6	+0.8	++	1221.0	115	+	1519.6	102	0
北見枝幸	6.9	+0.9	++	1202.0	105	0	1495.4	96	-
羽幌	8.6	+0.9	++	1302.0	102	0	1593.2	101	0
雄武	6.7	+1.0	++	894.5	103	0	1587.9	95	-
留萌	8.7	+1.0	++	1121.5	100	0	1581.8	103	0
旭川	7.9	+1.0	++	974.0	93	0	1610.9	101	0
網走	7.5	+1.0	++	644.0	82	-	1793.2	96	-
小樽	9.5	+0.9	++	1131.5	92	-	1628.0	100	0
札幌	10.0	+1.1	++	905.0	82	-	1764.3	101	0
岩見沢	8.7	+1.1	++	1192.5	103	0	1645.2	96	0
帯広	8.1	+1.3	++	716.0	81	--	2011.7	99	0
釧路	7.5	+1.3	++	856.0	82	-	2015.7	102	+
根室	7.3	+1.0	++	777.0	76	-	1923.9	104	+
寿都	9.5	+0.9	++	1283.5	109	+	1419.8	100	0
室蘭	9.6	+1.0	++	995.0	84	-	1740.7	101	0
苫小牧	8.7	+1.1	++	932.5	78	--	1722.1	101	0
浦河	9.0	+1.1	++	1022.0	95	0	1896.1	103	+
江差	10.9	+0.8	++	1013.5	85	-	1542.8	106	+
函館	10.2	+1.1	++	1119.5	97	0	1708.3	98	0
倶知安	7.9	+0.9	++	1479.0	100	0	1465.6	100	0
紋別	7.3	+0.9	+	906.5	112	+	1649.8	96	-
広尾	8.0	+1.2	++	1247.5	73	--	1812.5	100	0

- 注）・階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。
- ・「」付きの値は欠測を含む。「」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

## 年統計値の更新表（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年	
2020年	年平均気温の高い方から	第1位	帯広	8.1 °C	+1.3 °C	8.1 (2015)	1892	
			羽幌	8.6 °C	+0.9 °C	8.9 (1990)	1921	
		第2位	留萌	8.7 °C	+1.0 °C	8.9 (1990)	1943	
			旭川	7.9 °C	+1.0 °C	8.2 (1990)	1888	
			小樽	9.5 °C	+0.9 °C	9.8 (1990)	1943	
			札幌	10.0 °C	+1.1 °C	10.1 (1990)	1877	
			岩見沢	8.7 °C	+1.1 °C	9.0 (1990)	1946	
			釧路	7.5 °C	+1.3 °C	7.7 (2015)	1910	
			寿都	9.5 °C	+0.9 °C	9.9 (1990)	1884	
			苫小牧	8.7 °C	+1.1 °C	9.0 (1990)	1942	
			浦河	9.0 °C	+1.1 °C	9.2 (1990)	1927	
			江差	10.9 °C	+0.8 °C	11.2 (1990)	1941	
			倶知安	7.9 °C	+0.9 °C	8.0 (1990)	1944	
			第3位	広尾	8.0 °C	+1.2 °C	8.2 (2015)	1958
				根室	7.3 °C	+1.0 °C	7.6 (2015)	1879
	年降水量の少ない方から	第3位	苫小牧	932.5 mm	78 %	839.0 (1984)	1942	
			広尾	1247.5 mm	73 %	1051.5 (1984)	1958	

※データは速報値であり、後日変更される場合があります。

お問い合わせ先 札幌管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課  
TEL (011) 611-6174